毎月10日発行　第724号（通巻1228号）

定価１部40円

創立1880年

東京YMCA

2015 4 月号

発行所　公益財団法人東京ＹＭＣＡ　発行人　廣田光司
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562

URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命

東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

新しいメンバー・学生・園児を迎えて

“先輩”からのメッセージ

4月、東京ＹＭＣＡは、専門学校生や園児・学童クラブ児童など約1000人の新しい方々をお迎えしました。これから水泳やキャンプに参加予定の方も大勢います。そんな皆さまに、“先輩”の体験談を贈ります。ＹＭＣＡとの出会いが、皆さまにとって素晴らしいものでありますよう、“先輩”・職員一同願っています。

水泳8年間、親子で貴重な体験

鴇田（ときた） 佳代さん

水泳･体操･キャンプ参加の保護者

長女は年中から8年間、東陽町センターの水泳に通いました。ほかにも体操を3年間、テニスを2年間、定例野外グループに4年、またシーズンキャンプにも多数参加し、今春中学生になるのを機に〝卒業〟しました。

ＹＭＣＡに来ると、リーダーや他の学年の友だちとも会えて楽しいし、指導も丁寧なので続けることができました。本当にきれいに泳げるようになり、一生の趣味ができたと思ってますし、他のことも乗り越える自信がついたように思います。

また、キャンプや定例野外活動では、家族のお出かけとはまったく違う、貴重な体験ができました。リーダーたちと出かける中で、友だちと協力したり、自分で考えたりと、鍛えられたなと思います。

私自身も4年前からテニスを始めました。オープンハウスでは餅つきボランティアをしたり、チャリティーランでも走ったり。親も子も本当にさまざまな経験ができました。

新しく入会された皆さまにも、たくさんの出会いとたくさんのチャンスがありますように！（談）

英語で世界が広がったことを実感

藤井 栄さん

インターナショナルキッズガーデン／卒園児保護者

ＹＭＣＡキッズガーデンは、英語で過ごす幼児園です。長男、次男ともにお世話になり、今年3月次男が卒園しました。

我が家は両親とも日本人で、海外転勤の予定もなかったのですが、ある時子どもが外国の人を見て「ママ大変!!」と驚く様子を見て、小さいうちから色々な国や文化を知って認め合える人になって欲しいと思い、入園しました。ＹＭＣＡは、欧米だけでなくアジアやアフリカなど様々な国の先生や生徒が集う、本当に多文化で、ボーダーレスな園です。お弁当一つを見ても千差万別ですし、行事も多彩です。色々な価値観を知るにはとてもいい環境でした。

母子ともに英語力がないまま入園し、初めは心配しましたが、日本人の先生にも面倒をみていただき、園生活を十二分に楽しむことができました。長男は小学2年生の時に英検2級に合格。自信もつき、どんな国の人とも接することができるようになりました。子どもたちと話すと、目の前には私の計り知れない世界が広がっていることを実感します。それが本当に嬉しいです。（談）

作業療法士を目指して

並木亨真さん

医療福祉専門学校／作業療法学科3年生

4月から3年生（最終学年）になります。進級には「評価実習」という大きなハードルがあったのですが、みんなで励まし合いながら乗り越えることができました。

今年は国家試験を受けるので、とにかく合格して就職し、患者さんから「この人と出会えてよかった」と思ってもらえるような作業療法士になりたいです。患者さんにとって、リハビリが思うようにできたかどうかは、その後の人生を大きく左右すると言っても過言ではありません。責任が大きく、同時にやり甲斐のある仕事だと思います。

ＹＭＣＡの学校は、入口が教務課になっていてとても話しやすく、教務の方とのちょっとした会話で、気持ちが不安定な時でも落ち着きます。また少人数なのでクラス内での絆が強く、みんなで助け合いながら学んでいます。

新入生のみなさん、一緒に頑張りましょう。自分たちも先輩にたくさん面倒みてもらったので、新入生にはそのお返しをしたいと思っています。

子も親も思い出いっぱいに

藤原陽子さん

ＹＭＣＡオリーブ保育園／卒園児保護者

長女は3年前に、そして次女は今春、オリーブ保育園から巣立ちました。

2人とも、0歳から6年間過ごした保育園での一番の思い出は「キャンプ！」とのこと。年長クラスの夏に山中湖で行われる、親の同伴なしでの一泊キャンプ。クラスの仲間や先生方と様々な体験をし大きな達成感を得てからは、おっとり甘えんぼな娘たちも自主性がぐんと高まり、秋の運動会、冬のページェント（降誕劇）、そして3月の卒園式などで素敵な姿を見せてくれました。園では毎月様々な行事が開催されるので娘たちはいつも楽しそうでしたし、日ごろから先生方が連絡帳などで「給食を残さず食べましたよ」「泣いているお友達をなぐさめてあげていました」など、小さな成長の様子も書き留めてくれることが嬉しかったです。仕事で疲れて帰ってきても、娘たちの笑顔と連絡帳をみることで元気をもらいました。

入園当初は子どもも親もちょっぴり不安です。でも、きっと大丈夫。子どもたちがのびのび遊び育ち、たくさんの家族が笑顔で過ごせますように！

園での出逢いは一生の宝

鈴木陽子さん

江東ＹＭＣＡ幼稚園／卒園児保護者

私と東京ＹＭＣＡとの関わりは、6年前、長男が江東ＹＭＣＡ幼稚園へ入園した時から始まりました。

幼稚園ってどんなところだろう、お友達は出来るのかしらと、子どもよりも心配事が多かったように思います。しかし、入園してみると、毎日笑顔で温かく迎えてくださる先生方や、先輩ママたちなど、心強い方々のお陰で、保育に関する心配は全くなくなりました。幼稚園のママたちとは、毎日の送迎や降園後に公園などで色々お話することができ、そういう中で育児の悩みを相談したり、他愛もないことをおしゃべりしたり、今考えるととても貴重な時間でした。また保護者みんなで関わるバザーでは、学年を超えたお母様達とも一緒に作業をすることでさらにお友達の輪が広がっていきました。そんな6年間を過ごした中で出来た「ママ友」は私の宝です。一生の宝となるような人々とたくさん関わることができ、本当に感謝しています。

これから新しい生活を迎える皆さまにもステキな出逢いがありますよう、お祈り申し上げます。

赤▽三角

小学校のときは先輩・後輩という呼び方はなかったが、中学校に入ってから上級生を先輩というようになり、大学では上級生という用語は消えた。先輩から知恵を借りたことはあっても、困った経験がない。最近の報道では先輩がパワハラをする事例が多く、先輩のイメージが悪くなっているが残念である▼先輩という言葉はある組織に自分より先に加入した者をさし、本来は悪い意味はない。中学校から大学では、先輩は後輩に対し見下した表現を使い、後輩は先輩に敬語を使うことが多い。これは、家庭内で年長者を大切にする風潮から見て、ある程度のこの傾向は自然なことである▼東京ＹＭＣＡの少年長期キャンプ「野尻学荘」で毎夏2週間を、50代を含めた指導者と一緒に過ごした。「人生の大先輩」という理解はあったが、年長者に対して先輩と呼びかけたことはなかった。「先輩」ではなく「年上の友だち」だと感じていた▼違う組織に加わると、大勢の先輩に囲まれる。その組織での経験が長く、人生経験も豊富な先輩たちから知恵を借り、自分の技術を向上させ、組織がうまくいくようにしたい。そのためにＹＭＣＡでの体験が役に立つことを期待する。（会員　森本晴生）

２０１５年度　東京ＹＭＣＡ事業計画・運営方針

使命にかなう活動を

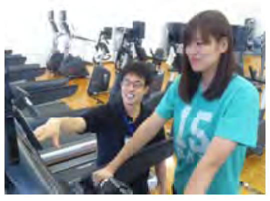
東京ＹＭＣＡの使命

東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

2015年度東京ＹＭＣＡは、以下の事業を計画しています。
多くのみなさまのご参加・ご支援をお願いします。

（１）教育、スポーツ等を通じて人々の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養することを目的とする事業

子どもの体育活動


成人の健康増進

通信制高校サポート校

（２）乳幼児・児童又は青少年の健全な育成と子育て支援を目的とする事業

保育事業

地域の子育て支援

児童館・学童クラブの運営

（３）職業教育を通して勤労者の就労支援や福祉の向上を目的とする事業

国際ホテル専門学校

社会体育・保育専門学校

（４）国際相互理解教育や国際協力を促進し、国際交流のコミュニケーション能力育成を目的とする事業

語学教育

インターナショナルスクール（TYIS）

にほんご学院

国際交流（海外キャンプ・ホームステイ）

海外ＹＭＣＡとのパートナーシップ事業（バングラデシュ、ＮＹフロストバレー、北京、ソウル）

学校法人東京ＹＭＣＡ学院

学校法人東京ＹＭＣＡ学院は、以下の運営をしています。

医療福祉専門学校

江東ＹＭＣＡ幼稚園

しののめＹＭＣＡこども園

【運営方針】

１．使命の遂行
公益財団法人として市民社会形成と青少年の健全育成など使命に適う働きを促進すると共に、幅広い支援・寄付を受けることができる働きを推進する。

２．復興支援
東日本大震災の復興支援については石巻市、福島県を中心に全国のＹＭＣＡとの協働の中で新たな展開を模索する。

３．財政健全化
2015年度は3年間にわたる東京ＹＭＣＡ財政再建計画を終了し新たに歩みだす時として、将来に備えさらなる財政健全化に取り組む。

４．次期中期計画策定
事業拠点の計画を含め東京YMCA次期中期計画を策定する。東京ＹＭＣＡ現行諸事業の点検、再構築を図りながら、さらなる進展を構想する。

（５）生涯教育の場を提供し、豊かな学びと教養を得ることを目的とする事業

居場所プログラム
オープンスペースliby（リビー）

（６）地域社会の健全な発展を目的とする事業

行政協働（江東区・港区の指定管理者事業）

各種募金、奨学基金など

各種コミュニティープログラムなど

（７）社会奉仕活動を実施することを目的とする事業

ユースボランティアの育成

東日本大震災復興支援活動（石巻）

福島の子ども支援プログラム

（８）障がい者、及び高齢者の健康や福祉を増進することを目的とする事業

発達障がい児支援クラス

高齢者の健康や福祉の増進

障がい児・障がい者のプログラム

（９）自然環境の中で、野外・環境教育を伴う宿泊体験学習と余暇を豊かなものとすることを目的とする事業

妙高高原ロッジ

山中湖センター

野尻キャンプ場

（10）その他目的を達成するに必要な事業

ａ．東陽町センターの空きスペースをNPO法人等他団体へ提供。
ｂ．山手センター駐車スペースをコインパーキングとして提供。

東日本大震災４年 共に祈り、復興願う

山手センターで70人が礼拝

東日本大震災から4年目となる3月8日（日）、東京ＹＭＣＡは「今、ともに祈る　明日のいのちのために」をテーマに礼拝を開催。約70人の会員・ボランティアが山手センターに集い、14時46分に黙とうをささげ、共に祈りました。

礼拝説教は、震災の直前に牧師になり、福島県いわき市の日本キリスト教団磐城教会で復興支援活動を担ってきた上竹裕子牧師（写真）から、今なお放射能の不安の中にある福島の方々の状況と、旧約聖書『詩編』にみられる「嘆き」と「創造」についてお話いただきました。

福島から駆けつけてくださった上竹裕子牧師

石巻からも、ケアマネージャーの阿部安子さんが来場し、高齢者と共に乗り越えてきた4年の歳月について報告されました。ＹＭＣＡは阿部安子さんが勤めていた高齢者グループホーム「あゆかわの郷」に震災直後から伺い、歌の広場を開催してきましたが阿部さんは、初回の歌の広場で「ふるさと」を歌ったときの様子について、「ひび割れた心にハンドクリームを塗るように、すっとしみこんできた。ＹＭＣＡさんからは歌以上のものを届けていただいた」と語られました。

なお東京ＹＭＣＡの各センターでは、7日から11日にかけて街頭募金や支援活動報告会を開催したほか、春休みには専門学校生や山手学舎生らが石巻を訪れて、子どもたちの学習支援活動やカキ養殖など漁業の手伝いをしました。

→高田馬場駅前での街頭募金

震災復興支援　協賛…日清製粉グループ

福島の小学生29人をスキーに招く

放射能の影響で今なお外遊びに不安をかかえる福島の方々から、「県内でもいいから子どもを思いっきり外で遊ばせてほしい」との切なる声が寄せられたことから2月21～22日、福島県の磐梯猪苗代高原で、「わいわいキッズスノーキャンプ」を行いました。東京ＹＭＣＡとしては震災後初めての福島県内でのキャンプでしたが、30人の定員に対して約150人が応募。関心の高さが伺えました。

ゲレンデでは、ＹＭＣＡのリーダーＯＢで現在アルツ磐梯スキー場ガイドをしている中島力さんと彼の仲間が、ボランティアでスキー指導をしてくれました。また、宿舎でのレクリエーションや生活面ではＹＭＣＡのボランティアリーダーたちが活躍。子どもたちは1泊2日を大いに楽しみました。

開催にあたっては、東京ＹＭＣＡ賛助会会員である日清製粉グループのほか、星野リゾートアルツ磐梯、スナップ倶楽部、香港日本人補習授業校、香港中華ＹＭＣＡ、倶進会に協力いただきました。

今後も継続した支援活動が必要とされています。皆様のご協力をお願いします。

（会員部　村上祐介　＊4月より、ぐんまＹＭＣＡ総主事）

育児コンサルタント　河村　都さん講演

子育てが3倍楽しくなる　ハッピートーク

「子育てが3倍楽しくなる　Ｙわいハッピートーク」をテーマに第9回子育て講演会が2月14日、江東区の「しののめＹＭＣＡこども園」で開催されました。講師は河村都氏（オフィス・カワムラ代表）で育児コンサルタントとして活躍されている方ですが、とても楽しい講演会でした。氏は幼稚園教師の時代にＮＨＫの「おかあさんといっしょ」のおねえさんとして抜擢、その後大学非常勤講師、一般企業の人材教育の責任者、お客様相談室室長など豊富な経歴をもっておられます。

→ＮＨＫ〝おかあさんといっしょ〟元おねえさんの河村都氏

講演では、おかあさんが子育てにゆっくりとホッと安心して立ち向かえるように、子育ての大切なポイント、こどもの「考える力」「想像力」「感性」を強調して、やさしく、笑顔で話されました。2時間は、あっという間に過ぎました。講演後の多数の質問には、その都度、明快に、すっきりとお答えいただき満足しました。参加者は子育てが3倍楽しくなる方法を知りたくて、ふだん子どもを怒ってばかりいる自分を変えたくてと、前向きのおかあさんが多く、また乳児を抱えたおとうさんや、〝育爺（イクジイ）〟も聴き入っていました。

この講演会は職員と会員による実行委員会がすすめてきましたが、当日の託児は、日ごろ保育に携わるスタッフと山手学舎生にボランティアでお手伝いいただきました。

また、この開催のために協賛金を拠出してくださった各企業団体に感謝いたします。参加者は125名（昨年比21名増）。

（子育て講演会実行委員　佐藤茂美）

洗足学園音楽大学

復興支援チャリティーコンサート

ＹＭＣＡ石巻支援センターの活動のため、洗足学園音楽大学の「飯靖子（いいせいこ）讃美歌ゼミ」の学生たちが2月13日、チャリティーコンサートを開催。会場の日本基督教団霊南坂教会には約100人が訪れ、ジャズミサなど様々な讃美歌に聞き入りました。ゼミの指導者で東京ＹＭＣＡ理事でもある飯靖子さんは「音楽で何ができるかを考えたことは、学生にとってもプラスになった」と語られました。当日の献金は77,525円。別会場で開催したコンサート益金も合わせて138,647円を寄付いただきました。

libyと高等学院が連続講演会

「不登校や引きこもりを考える」

「親子、家族、身近な関係者として、不登校や引きこもりを考える～医療、学校、当事者の話から～」をテーマに、オープンスペースlibyと高等学院が11月から開催している連続講演会の2回目が1月23日、山手センターで行われ、玉川聖学院中・高等部長の水口洋氏が、思春期の親子が直面する課題についてお話しされました。3回目は2月21日、libyと高等学院のスタッフが自らの体験を交えて、参加者とともに語りあいました。

水口氏の講演を紹介します。

■「人間学」講座を担当して

玉川聖学院中・高等部長　水口　洋さん

私は中学・高校に40年近く携わり、「人間学」という教科を作り、担当してきました。私たちが生まれてから死ぬまで、人生のそれぞれの時期に出会う課題を学び合う講座です。思春期の「春」、社会的役割を果たしていく「夏」、自分の色に色づく成熟の「秋」、そして死と向き合っていく「冬」、人はそれぞれの季節に相応しい課題に出会います。人はその課題と向き合い、その意味を考えていくことで「自分」になっていくのだと思います。

人生の春に

思春期は、親からの旅立ちの時期です。それまで絶対的だった親から離れ、自分という存在について考え始めます。その過程で、アイデンティティ・クライシスも経験します。曲がり角の向こうに何があるのか見えない不安や困惑を感じます。他者への強い攻撃性や、自分への苛立ち、親への失望なども経験します。そのような心の揺らぎの中で、安定を求め、誰かを排除することでまとまろうとする傾向が強まり、いじめに繋がったり、自分の世界に閉じこもることもあります。摂食障害などもおきやすくなります。

このような思春期の危機、曲がり角を抜けていくには、ゆったりとした人間関係を、ゆっくりと作り直していくことが大切です。

「自分」になる

自分という存在を見つめ直していくには、孤独を引き受け、一人になって静まる空間が大切です。アンネは日記を書くことで、もう一人の私に語りかけていました。様々な情報が絶えず入ってくる現代ですが、一人になって静まる空間で自分が創られていくのです。

自分自身を引き受けていくと同時に、自分の考えを聞いてくれる、心の鏡になるような他者に出会うことも大切です。他者に対して自分のことを語ることで、自分の人生を意味づけし、場面や相手によって語り分ける自分に出会うことで、少しずつ「自分」という存在が見えてくるのです。

夏から秋へ

次に、親が直面する「夏から秋」の課題についてです。子どもは思春期に入ると、絶対的な存在だと思っていた親に、「えっ？」と思うことがでてきます。映画『千と千尋の神隠し』の冒頭、主人公の親が豚に変わってしまうシーンは、親が絶対的な存在とは思えなくなる体験の象徴だと思います。それまでの親子関係が崩れ、「反抗期」として行動や態度に表れます。それは、親との関係を作り変えたいという子どもたちの叫びなのです。だから、そのような子どもたちの心の叫びに寄り添い、もう一度親子の関係を一緒に作り直していくことが、この時期の最大の課題だと思います。

親は、変わっていく子どもを受け入れるのが難しく、逃げ出したくなる時もあります。しかし私は、様々な困難に直面する家族が、一見マイナスに思えることを通して、親子関係を作り直していくのを見てきました。人生の夏から秋に、親子関係の作り直しという変化を受け入れていくことで、親自身も「自分」になっていくのです。

（まとめ＝高等学院　大山貴史）

すべての人を一つにしてください

人材ではなく人物を育てる

「知識よりも見識、学問よりも人格を尊び、人材よりは人物の養成」（新渡戸稲造）。

新年度がスタートしました。東京ＹＭＣＡは今年度も使命に基づき、青少年の全人的成長を願い、公正で平和な世界を作るための運動を展開します。

この頃よく耳にする言葉に「グローバル人材の養成」があります。世界で通用する人、産業界で役立つ人材ですが、ＹＭＣＡが育てようとしている青少年は世の中を変えていける人間です。人が道具とみなされ、役に立つか立たないかが評価基準になる関係・世界ではなく、「我と汝」の関係を大切にしたいのです。

人材を〝人財〟と書いて違いを説明する人もいますが、どちらにしても役に立つ道具であることは変わりません。今年10月から、国民一人ひとりに12ケタの個人番号をつけるということです。管理のためのようですが、人間が「それ」として扱われる不安がよぎります。

新渡戸稲造は「人材ではなく人物の養成」と言っています。社会を変革していく人物が育っていくことが私たちの希望の根拠です。ＮＨＫ大河ドラマで、吉田松陰が若者に「あなたは何を志しますか」と尋ねる場面があります。「こころざし・ミッション」が問われているのです。使命を自覚した生き方ができるかが人物には問われます。経済成長のための道具としてではなく、若者にはじっくりと時間をかけて育って欲しいものです。

（総主事　廣田光司）